

東北の“老舗”山形県立博物館

山形県立博物館 専門学芸員 長澤 一雄

1 場所と沿革

山形県立博物館は、JR山形駅からもほど近い、山形市のほぼ中心部の霞城公園のなかにあります。霞城公園は、旧山形城二の丸のあったところで、近年国の史跡に指定され、城郭の発掘調査も行われています。公園は緑が濃く、また周辺には、多く体育施設や美術館・資料館などがあることから、市民の憩いの場となっています。

山形県立博物館は、1971年4月に開館しました。当時進められた、山形県の明治百年記念事業の一つとして建設され、今年で開館25年を迎えました。本館は、県立博物館としては東北地方で最初の施設であり、いわば東北の“老舗”博物館といえます。開館後、1976年4月には、山形市西部の白鷹丘陵にある琵琶沼湿原（県指定天然記念物）を附属自然学習園とし、また1980年には、山形市街にある旧山形師範学校本館（重要文化財）を、分館の教育資料館として、博物館施設を発展させてきました。

2 構成

山形県立博物館は現在、地学・動物・植物・考古・歴史・民俗・教育の7部門から

なる総合博物館です。本館の施設は約4,200㎡で、このうち展示面積は約1,400㎡となっております。これは、現在ある東北地方の他の県立博物館の半分以下の規模であり、けっして大きいとは言えません。開館が早かったものの、施設・設備の面では、種々の不十分さを抱えています。学芸系スタッフは、学芸員が各部門1名の計7名と、これに嘱託職員7名を加えた構成です。この人的構成も十分なものではありません。

こうした施設やスタッフの不備に加えて、博物館運営の予算規模もかなり抑えられたものになっています。博物館の対象とする資料収集・整理保存・調査研究・展示教育という地域社会における活動の量と質を考えると、さらに存在の意義が問われ、活動の充実のための環境づくりが進められるべきでしょう。こうした“三重苦”に悩まされている“老舗”博物館が本館の現状です。しかしながら、職員個々が知恵をしばって仕事に励んでいることも事実です。自分の研究環境は、最後は自分で整えていくしかないということもまた事実だからです。

3 展示と資料

本館の展示は、大きく3つの展示室から構成されています。第1展示室が自然系、第2展示室が人文系、第3展示室が民俗系と企画展示となっています。このうち地学展示は、第1展示室において、主に“やまがたの生いたち”をテーマとして、約150点の資料の展示と解説を行っています。山形県の地史・地質的特徴・主な化石産地などが編年的に解説されています。この展示は、開館後の大きな展示替えで現在の姿になって以来、基本的それを引き継いで約15年を経過しています。小規模の展示替えを行ってきたものの、プレートテクトニクス解説の不十分さ、文字情報の繁雑さ、一部内容の古さなど、よい展示への課題を抱えています。目まぐるしく進展していく地球科学の成果を、いち早く取り入れられるよう、努力していきたいと考えています。

また1階ホールでは、鉱物・岩石・化石について、約350点の資料による分類的展示をおこなっています。ここでは、“やまがた”に特にこだわらず、多くのまたよい資料を広く展示しようとしています。やや単調な展示になっているきらいはありますが、レプリカではなくより多くの実物を、という主旨で、新しい資料もなるべく早く展示しようと心がけているところです。

4 主な資料

展示資料のなかでは、“ヤマガタダイカイギュウ”（県指定天然記念物）が特筆されます。これは、1978年に山形県大江町で本館によって発掘された後期中新世の化石で、ほぼ完全な標本です。この海牛化石は、18世紀にベーリング海で絶滅したステラカイギュウの直系の先祖にあたり、この系統の進化を解明するための形質をよく保存している貴重な化石です。“ドシシーレン・デワナ”として新種記載されました。

大型ヒトデ化石（県指定天然記念物）は、村山市から産出した中期中新世の化石で、大きさは国内最大と考えられるもので、未記載ながら新種の可能性のある興味深い標本です。展示資料はレプリカで、原資料は県内の小学校で保管されています。

鳥の足跡化石は、舟形町の旧中山炭鉱の坑道からみつかった後期鮮新世の化石で、鳥の足跡化石としては国内で初めて報告された標本です。マナズルと近縁な種と考えられています。近年、これに類似する化石が、近畿地方の古琵琶湖層群から報告されており、その関係が注目されます。

ナウマンゾウ化石は、これまで県内から7点みつかっています。このうちの臼歯と大腿骨の2点が本館で所蔵され、展示されています。山形のナウマンゾウ化石は、東北で最も多く産出しています。

これまでの収集活動による収蔵資料は、整理の済んだ登録資料が約3,500点となっています。現在、収蔵庫の狭さが大きな悩みであるとともに、資料収集費もほとんどないため、体系的コレクションをつくりにくい状況にあります。近年の土木工事などにもなつて、良好な露頭が出現していますが、化石等は埋蔵文化財として保護されることもなく、大部分が失われていくのが現状です。地質露頭についての情報を的確にとらえて、すみやかな調査と収集活動ができるような態勢づくりも、今後の博物館に求められる課題でしょう。地質資料を体系的に保存していく機関としては博物館が最も有効だからです。

現在収蔵されている資料は、山形県産を中心とする岩石・鉱物・化石資料です。このなかには、すでに採集不可能となっている鉱石・鉱物や化石も多く含まれています。本館では、これらを企画展示や資料研究で用いたり、他館の展示に貸し出したりしています。また、個人の研究のためにも利用が可能な体制をつくっています。

5 調査研究

本館では、恒常的な調査研究費がありません。緊急的な調査についてのみ、その都度予算要求して調査活動を行っているのが現状です。従つて、研究については個人の意欲や努力にほとんど負っています。

学芸員の置かれている立場は、博物館のありかたともからんで、国内的にみると県によつても設立主体などによつても、実は千差万別なのが現状です。これについては、学芸員制度や博物館法の問題も関連して複雑ですが、今後多くの博物館と協力して、学芸員として誇りのもてる博物館を目指していくべきだと考えています。こうした厳しい現状ながら、最近のいくつかの調査研究を紹介します。

1993年から1994年にかけて、山形県真室川町において、大型ヒゲ鯨の発掘調査を行いました。これは、前期鮮新世の野口層からのもので、化石は不完全ながら鯨とすれば、かなりまとまった産状を示すものでした。現在も化石のクリーニング作業を継続しているところです。これと関連して、周辺の地質調査も行っています。

1994年には、本館の附属学習園の琵琶沼湿原のボーリング調査を行いました。合わせてその成因を探るため、周辺の白鷹火山の地質と溶岩の年代調査も行いました。これらの成果は、「琵琶沼緊急調査報告書」にまとめられています。

1995年には、山形県戸沢村から海牛の肋骨化石が産出しました。これは、前期鮮新世の中渡層からのものです。これについて、周辺の地質調査とともに、化石の形態比較を現在進めているところです。

6 新しい博物館

山形県では、山形県立博物館の新築移転の計画を現在進めています。これは、建物の部分的な老朽化とその狭さや、現在の敷地が山形市からの借地であること、加えて市民の生涯学についての要求の増大等の背景があります。新博物館の規模や移転先など、未定の部分が多く、また課題も山積していますが、そのよりよい方向性の模索が始まっています。今年の10月25日は、公開シンポジウム「“新博物館像”を語る県民フォーラム'96」が開催され、パネリストとともに利用者としての市民の場からの意見も述べられました。新築移転については、まだ10年後くらい先になりそうですが、着実な活動を基礎においた、よい博物館づくりを目指したいものだと考えています。

7 利用案内

常設展示以外にも、本館の専門分野に関する企画展・特別展を年5回開催しています。また、成人対象のそれぞれ5回シリーズの「自然と人間講座」と「郷土と歴史講座」や、親子対象のフィールドワークを主とする「親子博物館教室」を年2回開催しています。こうした催しものにもぜひご参加ください。

本館では、市民等の研究団体との共催事

業も行っています。本館講堂を会場として、各種の学会・研究会の講演会や研究発表会も活発に開催されています。地質関係では、山形応用地質研究会が、毎年総会・講演会と談話会を行っています。共催事業についてもご利用ください。

最後に、より多くの皆様にご来館いただき、ご意見・ご批評をいただければ幸いです。

所在地：〒990 山形市霞城町1-8

(JR山形駅から南へ徒歩15分、霞城公園内)

TEL 0236-45-1111

開館時間：午前9:00～午後4:30

休館日：毎週月曜日、国民の祝日（5月5日と11月3日は特別無料開館）、年末年始、館内くん蒸期間（11月下旬頃）。

入館料：大人300円、学生・小人150円、団体割引は20名以上で半額。

相談：本館の専門にかかわる資料等の相談は、随時学芸員が対応。

特別利用：展示資料や収蔵資料の調査研究等について、所定の手続きによってできる。

共催事業：所定の手続きによってできる。

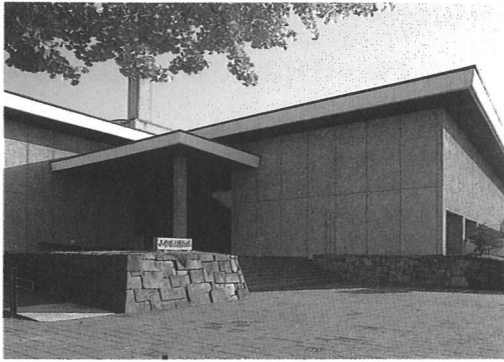


写真1 山形県立博物館全景

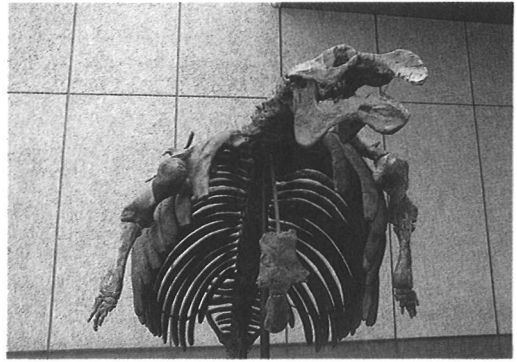


写真2 ヤマガタダイカイギュウ全身骨格
山形県大江町産、後期中新世

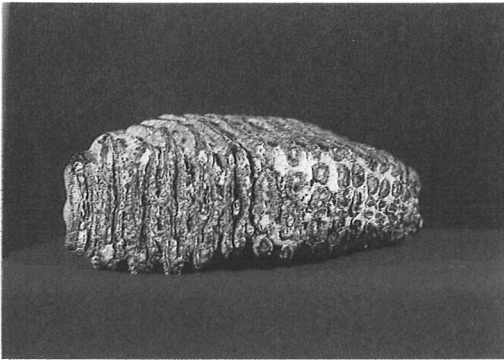


写真3 ナウマンゾウ左第3大白歯
山形県村山市基点産、後期更新世



写真4 琵琶沼湿原ボーリング調査
1994年8月



写真5 海牛化石発掘調査 1995年8月
山形県戸沢村 前期鮮新世



写真6 親子博物館教室“化石を掘る”